

保育士養成校におけるオペレッタ創作による
社会人基礎力獲得の可能性について

佐々木友里・葛谷 潔昭

Possibility of Acquisition of fundamental Abilities of Fundamental Competencies for
Working Persons by Creating Operetta at Nursery Teacher Training School

Yuri Sasaki, Kiyoaki Kuzuya

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

保育士養成校におけるオペレッタ創作による 社会人基礎力獲得の可能性について

Possibility of Acquisition of fundamental Abilities of Fundamental
Competencies for Working Persons by Creating Operetta at Nursery
Teacher Training School

佐々木 友里・葛谷 潔昭
Yuri Sasaki ・ Kiyoaki Kuzuya

1. はじめに（研究の目的）

この研究は、昨年度報告した「保育士養成におけるオペレッタ創作の効果 ～社会人として求められる能力の獲得の可能性について～」の続編である。対人援助専門職の能力の獲得のために、オペレッタ創作に取り組む学校が多くみられるが、その獲得の度合いについて、先回の研修では、保育士養成校におけるオペレッタ創作活動が、保育者や社会人としての能力の獲得および、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の獲得に関連している可能性があることを示した。「社会人基礎力」とは、経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」で示されたものあり、「基礎学力と専門知識を使いこなすことができる力」としている¹⁾。

先回の研究で示した結果（2008年度～2013年度）を私たちが勤務する保育士養成校の職員に対して示したところ、主観として社会人基礎力の獲得の効果が上がっていると推測できるとコメントがあった（2014年度）。そこで、この研究では「社会人基礎力」に特化して、その力の獲得について学生が可能性を実感しているのかどうか、実際に獲得できたのかについて確認することを目的に実施する。具体的には、学生へのアンケート調査の結果を示し、そこから、オペレッタ創作活動が、社会人基礎力の獲得にどのようにつながっているのかについて考察し、さらには、今後のオペレッタ創作および保育士養成の課題について検討する。

2. 研究方法

卒業記念として行っている、オペレッタ創作発表後に「オペレッタ創作」によって獲得できた、もしくは獲得の必要性を感じた社会人基礎力に内容に関するアンケートを実施した。

その調査は、社会人基礎力の獲得度合いのレベルおよび、その基礎力のオペレッタ創作における具体的な内容について回答を求めたもので、その集計によって、獲得できた社会人基礎力について明確化し、オペレッタ創作の効果についてまとめることとした。

なお、社会人基礎力とは、「3つの力」と「12の能力要素」で構成されている²⁾。今回の研究では、社会人基礎力の「12の能力要素」の項目を質問項目として活用した。

<調査>

1) 調査期間：2014年度～2016年度（2014～15年度は、前回の研究と同時進行している）

オペレッタ創作（卒業記念音楽発表会）の発表後1週間程度（各年度1月下旬もしくは2月上旬）

2) 調査方法：配布・回収法

3) 調査対象者数：144名（「音楽総合・卒業研究（オペレッタ）」受講者）

4) 回収率：100%

5) 調査項目

① オペレッタ創作活動が「社会人基礎力」の獲得につながるもの、重要性を実感するものなのかについて

② オペレッタ創作活動でどのような「社会人基礎力」の獲得ができたのかについて（自己評価）

<分析と考察>

上記の調査の結果を踏まえて、今後の課題を抽出する。

3. 調査結果

まず、はじめに、オペレッタ創作活動の社会人基礎力の獲得の可能性について調査を行った（研究方法の5）の①）。

アンケート用紙には「社会人基礎力の獲得ができなくても、オペレッタ創作実践を通して、その力の獲得の可能性や重要性の認識を持った場合、“言える”を選んでください」と記載した。その調査の結果は、文末の「表2・図1」のとおりである。

上記の通り、各項目とも、学生は、社会人基礎力の獲得の可能性を感じているといえ、オペレッタ創作が社会人基礎力の獲得のつながることについて、妥当性があると言える。

特に、「柔軟性」と「実行力」の獲得の妥当性があると回答した学生が多く、人間関係の調整の中で、柔軟な発想と行動の重要性の認識が高いことを示している。しかし、一方で、関連すると筆者が考えていた「状況把握力」が低く出ており、柔軟性の根拠である状況（状況を含む）の把握が比較的低く出ている理由が気になるところである。

続いて、はじめに、オペレッタ創作活動でどのような「社会人基礎力」の獲得ができたのかについて、自己評価を回答させるアンケートを行った（研究方法の5）の②）。

文末の表3-1、3-2およびグラフ（図2）は、学生が、オペレッタ創作を通して社会人基礎力を

獲得したか、していないかについて回答したものである。獲得度の0～3をマイナス（獲得度低）、4～6をプラス（獲得度高）とし、それぞれ合計し、可視化したのが図2である。全体を合計すると、マイナス評価した学生とプラス評価した学生は、若干プラスの方が多いが、僅差であった。つまり、ほぼ半数でプラス評価とマイナス評価が二分しているといえる。

各項目について、マイナス評価のパーセンテージが多い順に示すと、計画力(71.5%)、発信力(66.7%)、実行力(56.6%)、主体性(53.5%)となっており、これらは、プラス評価より大きいパーセンテージを示している。プラス評価のパーセンテージが多い項目は傾聴力(72.2%)、ストレスコントロール力(60.4%)、規律性(57.6%)、課題発見力(57.6%)、働きかけ力(55.6%)、状況把握力(54.9%)と続いている。もちろんこれらの各項目は、マイナス評価よりも大きいパーセンテージとなっている。

4. 考察と結論

学生は、オペレッタ創作に対して、社会人基礎力を身に着けることができると期待していたが、終了後の自己評価では、その獲得を意識できている学生は半数以上いたが、獲得できなかったもしくは実行できなかったとする学生とは僅差であった。

その中でも、学生が、オペレッタ創作を通して社会人基礎力を獲得したか、していないかについて回答したもの（表3-1、3-2およびグラフ（図2））を見ると、獲得もしくは実行ができなかったとするものが「計画力」と「発信力」であった。しかし、著者の仮説として、オペレッタ創作の科目の目標に、計画力の獲得、自発性の獲得も含まれているので、それが獲得できないとなると目標と結果が矛盾してしまう。では、なぜこのような結果が出たのか、それは、「できなかった」と実感できたということは、オペレッタ制作をもっと納得する水準まで努力すれば、計画力も発信力も身につくはずだったという認識を学生は持っているからではないかということである。

項目別で見ると、獲得できた、実行できたとするプラス評価で際立ったのが「傾聴力」であった。続いて5割以上回答があったもののうち多いもの順で「ストレスコントロール力」、「規律性」、「課題発見力」、「働きかけ力」、「状況把握力」であった。一方で、実行できなかった、獲得できなかったとするマイナス評価で際立ったのが「計画力」で、続いて、5割以上回答があったもののうち多いもの順で「発信力」、「実行力」、「主体性」であった。

この結果を解釈すると、プラス面の評価からは、オペレッタ創作を通して、他人の話をよく聞くように努力し、言葉や態度、精神をコントロールし、規律を守り、状況（状況を含む）を把握し、建設的に話し合い、みんなと協力しあって目的に向かって進めていく力をつけることができたと言えるだろう。

また、マイナス面からは、物事を進めていく上で計画をきちんと立て、周りとうまく関われるように自ら意見を言い、自ら積極的に動いていくことが足りていなかったと気づくことができ、その重要性を認識し、今後の課題として卒業後につなげていこうとしていると言えるだろう。

5. 今後の課題

このように、オペレッタ創作を通して学生は、社会人基礎力を養うことにつながっていると実感しているということが明らかになった。しかし、今回は、論文のスペースと時間の制約の関係で社会人基礎力の項目(タイトル)の獲得度について質問したものを分析する程度になってしまった。次回は、学生から寄せられた生の声をもとに、より具体的に分析していくこととしたい。また、卒業生の卒業後の意識の調査や、卒業生の活躍(事例調査)を行い、オペレッタ創作の効果がどれだけ保育現場で生かされているのかについて、卒業後の社会人基礎力の活用の実態についても研究を進めていきたい。

参考文献

- 1) 『社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－』,経済産業省社会人基礎力に関する研究会,2006(2016年10月1日閲覧) <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/chukanhon.pdf>
- 2) 『社会人基礎力 育成の手引き－日本の将来を託す若者を育てるために、教育の実践現場から』,経済産業省・河合塾,2010(2016年10月1日閲覧) <http://www.wakuwaku-catch.com/社会人基礎力/社会人基礎力育成の手引き/>

表1 「社会人基礎力」一覧(その他は筆者追記)

分類	能力要素	
前に踏み出す力 (アクション)	ア	主体性 物事に進んで取り組む力
	イ	働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力
	ウ	実行力 目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	エ	課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	オ	計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	カ	創造力 新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	キ	発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力
	ク	傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力
	ケ	柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力
	コ	状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	サ	規律性 社会のルールや人との約束を守る力
	シ	ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力

表2 「社会人基礎力の各項目の妥当性」(N=144)

分類	能力要素	項目の妥当性(獲得できると思われるか、重要性を感じるかどうか)					
		実数(人)			比率(%)		
		言えない	どちらとも言えない	言える	言えない	どちらとも言えない	言える
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	0	7	137	0.0	4.9	95.1
	働きかけ力	0	10	134	0.0	6.9	93.1
	実行力	0	3	141	0.0	2.1	97.9
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	0	12	132	0.0	8.3	91.7
	計画力	0	8	136	0.0	5.6	94.4
	創造力	0	10	134	0.0	6.9	93.1
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	0	7	137	0.0	4.9	95.1
	傾聴力	0	7	137	0.0	4.9	95.1
	柔軟性	0	4	140	0.0	2.8	97.2
	状況把握力	0	10	134	0.0	6.9	93.1
	規律性	0	9	135	0.0	6.3	93.8
	ストレスコントロール力	0	14	130	0.0	9.7	90.3

図1 「社会人基礎力の各項目の妥当性」(N=144) 単位: %

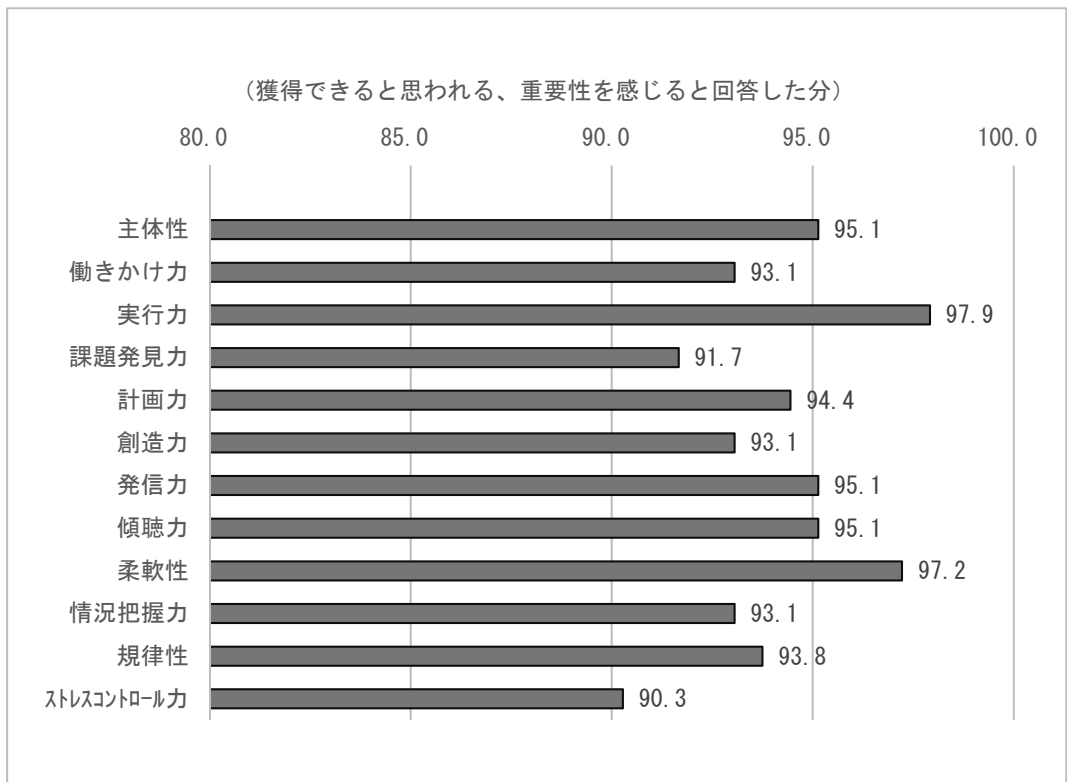


表 3-1 「社会人基礎力の各項目の獲得度」(N=144) 単位:人

(獲得度の自己評価回答。大きいほど身についた)

分類	能力要素	0	1	2	3	4	5
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	1	17	59	37	23	7
	働きかけ力	0	11	53	57	13	10
	実行力	5	21	56	45	14	3
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	0	13	48	51	20	12
	計画力	10	31	62	29	8	4
	創造力	2	20	47	42	23	10
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	7	27	62	31	12	5
	傾聴力	1	7	32	60	31	13
	柔軟性	2	17	39	63	19	4
	状況把握力	6	15	44	53	16	10
	規律性	2	20	39	53	21	9
	ストレスコントロール力	10	14	33	42	28	17

表 3-2 「社会人基礎力の各項目の獲得度」(N=144) 単位:%

(獲得度の自己評価回答。大きいほど身についた)

分類	能力要素	0	1	2	マイナス評価合計	3	4	5	プラス評価合計
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	0.7	11.8	41.0	53.5	25.7	16.0	4.9	46.5
	働きかけ力	0.0	7.6	36.8	44.4	39.6	9.0	6.9	55.6
	実行力	3.5	14.6	38.9	56.9	31.3	9.7	2.1	43.1
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	0.0	9.0	33.3	42.4	35.4	13.9	8.3	57.6
	計画力	6.9	21.5	43.1	71.5	20.1	5.6	2.8	28.5
	創造力	1.4	13.9	32.6	47.9	29.2	16.0	6.9	52.1
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	4.9	18.8	43.1	66.7	21.5	8.3	3.5	33.3
	傾聴力	0.7	4.9	22.2	27.8	41.7	21.5	9.0	72.2
	柔軟性	1.4	11.8	27.1	40.3	43.8	13.2	2.8	59.7
	状況把握力	4.2	10.4	30.6	45.1	36.8	11.1	6.9	54.9
	規律性	1.4	13.9	27.1	42.4	36.8	14.6	6.3	57.6
	ストレスコントロール力	6.9	9.7	22.9	39.6	29.2	19.4	11.8	60.4
マイナス評価項目別平均					44.5	プラス評価項目別平均			47.8

図2 「社会人基礎力の各項目の獲得度(自己評価)」(N=144) 単位: %

